

平成30年度串木野国家石油備蓄基地総合防災訓練の実施について

10月24日（水）、串木野事業所において、鹿児島県石油コンビナート等防災計画に基づき鹿児島県主催による平成30年度総合防災訓練が行われました。

本訓練は、『甑断層帯を震源とする震度6弱の地震が発生し、大津波警報が発令され緊急避難』、『市来断層帯を震源とする震度7の地震が発生（津波の影響はなし）。原油が漏洩し防油堤から流出。漏れた油に何らかの原因で着火、火災発生』、『作業中の事業所員1名が酸素欠乏及び転倒時に足を骨折し、救助活動』、『県消防・防災ヘリコプターに負傷者を收容し、第3次医療機関への緊急搬送を行う。』との想定で、関係諸機関（12機関、総勢約150名、訓練車両17台、防災ヘリ1機）と連携した、緊迫感のある訓練を行いました。

現地防災本部長であるいちき串木野市長より「関係機関との相互の協力、防災活動の円滑な実施という所期の目的が達成出来たと感じている。また、当基地は操業以来、無事故・無災害をモットーに関係の皆様が一丸となって、安全操業を継続されていることに敬意を表するとともに、今後とも資機材の取扱いなど技術練磨と実践的な訓練を重ね、関係機関との相互の連携を強化し、安全操業と防災活動体制の確立を図って頂きたい」とのご講評を頂きました。



緊急避難訓練



自衛防災本部設置訓練



土のう構築訓練



救護訓練



救急搬送訓練



消火延焼防止訓練（一斉放水）

また、10月16日（火）には串木野海上保安部、串木野市漁業協同組合等と連携した海域自主防災訓練が行われました。

訓練内容は、原油揚荷終了後の一点係留ブイ取外し工事中何らかの原因で海底配管プレム付近から流出が発生。オイルフェンスの展張、油回収船による油回収、油処理剤散布、油膜処理用吸着マット散布及び回収、火災を想定しての展示放水を行い、当基地で所有している防災資機材の健全性及び緊急時における連携を確認しました。尚、参加機関から串木野市漁業協同組合より漁船10隻、串木野海上保安部より巡視艇「るりかぜ」、当基地より油回収船「ちかびくろしお」、小型作業船「ちかびわかしお」の計13隻で実施されました。



オイルフェンス展張訓練



立入禁止措置



ファスタック組立



ちかびくろしおによる展示放水